

夢を実現して社会に幸せを!

- ある熱意ある卒業生の物語

Syed Emdadul Haque、理学系/保健学系博士

UChicago Research Bangladesh (米国シカゴ大学の研究組織)バングラデシュ代表

研究分野: 国際保健

出身国:バングラデシュ

2009年、12年東京大学医学系研究科国際保健学専攻修士課程、博士課程修了。UChicago Research Bangladesh バングラデシュ代表。20年間にわたり国際保健研究に専心するかたわら、子供の頃からの夢であった女子学校の設立、地域のプライマリ・ヘルス・センターの開設など様々なボランティア活動を行う。

日本で保健学を習得するきっかけ

エムダッドはバングラデシュ国立大学ジャガンナート校（現ジャガンナート大学）で統計学士、修士取得後、開発業務者、保健研究者として働き始めた。1999年から02年までバングラデシュの沿岸地域住民の健康問題を研究する。03年、米国コロンビア大学の研究プロジェクト「バングラデシュのヒ素暴露の健康への影響」に参画。そこでの研究過程で、海外で国際保健学の勉強を掘り下げたい思いを強める。シカゴ大学生命科学研究科人口精密保健研究所のHabibul Ahsan所長との出会いも大きかった。Habibul Ahsan所長に刺激を受け、海外の大学院をあたったところ、東京大学の国際保健学専攻が最適であることがわかった。すでにバングラデシュで公衆衛生分野での経験を積んでいたこともあり、公衆衛生の疫学に特化した分野を学ぶ下地はできていた。

07年、アジア開発銀行 - 日本奨学金プログラム（ADB-JSP）東京大学国際保健学修士課程に応募し、合格。4月には31歳で日本の高等教育を修めるため、世界最高峰の一つであり、アジアの大学で学べることに胸膨らませて来日した。

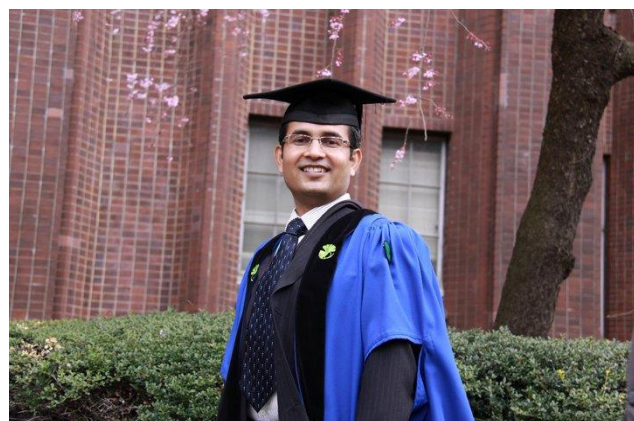
東京大学での学び

世界保健機構（WHO）では、「健康」を以下のように定義している。「完全な肉体的、精神的及び社会的福祉の状態であり、単に疾病又は病弱の存在しないことではない。」エムダッドは公衆衛

生には社会的要因を含むあらゆる問題が絡んでくると考え、水などの環境暴露や大気汚染、気候変動やその人体への影響、特に女性を含む弱者への影響などの国際保健問題に注力した。当該分野の第一人者たちの薫陶を受けることができ、東京大学での学びには大変満足していた。指導教員の神馬正峰教授（東京大学医学系研究科国際保健学専攻）からは学習上、全面的なサポートを受けた。「指導教員の神馬先生は地域保健プログラム、地域保健推進等国際保健問題で大変に著名な方です。国際保健の専門家である先生から多くを学びました。先生はいつも生徒たちに自ら研究させる方法をとられますが、これは楽しいことでした。」



09年の研修旅行で



12年博士課程修了式の日

勉学に励みながら、日本での生活も満喫した。「日本人からは我慢することを学び、今でも日常生活に取り入れています。また、日本人のシステムや思いやりが好きです。今でも日本は第二の故郷であると思っています。」

09年修士課程終了後博士課程に進学し、12年博士号を取得した。

Bangladesh に帰国

Bangladesh に帰国後は米国シカゴ大学の国際保健プロジェクトでポスドク研究者として研究を開始する。一年後、マレーシアの国連大学グローバルヘルス研究所（UNU-IIGH）でポスドクフェローとしてミレニアム開発目標（MDGs）と持続可能な開発目標（SDGs）を研究。研究期間終了後、Bangladesh に戻り、米国シカゴ大学の研究組織である UChicago Research Bangladesh に勤務、その後同 Bangladesh 代表となる。

過去 20 年間国際保健研究に携わり、40 件以上の査読付き論文を発表、15 か国以上の会議で研究発表するなど、自身の研究分野で活躍を続けている。

夢を実現して皆に幸せを!

エムダッドは若い頃、バングラデシュでは女子教育の需要が高いにもかかわらず、人口10万人の町には男女共学校はあっても女子教育に特化した学校が一つもないということに気づいた。そこで、いつの日か自分の町に女子学校を作りたいという夢を抱くようになる。日本留学中の09年から12年の間に、日本のビジネスマンである本庄竜介氏に女子学校建設の話を持ち掛けた。

「当時、私は本庄国際奨学財団の奨学金を受給していました。本庄氏との月例面談の機会を利用して、およそ二年間にわたり自分の夢を語り、話し合いを続けました。大学院終了後も本庄国際奨学財団の奨学金を得て、バングラデシュに戻りました。帰国後も電話や来日の機会をとらえて話し合いを続けました。ある時本庄氏が、バングラデシュを訪れ、私がか子供の頃学んだ学校を見学したいと仰いました。14年にバングラデシュを訪れた氏は、学校建設の資金提供に前向きになってくださいました。」

土地は自身の所有地を提供した。学校は15年に建設されたが、当時エムダッドはマレーシアの国連大学に勤務しており、毎日30分以上電話で工事の進捗状況を確認した。完成した学校はバングラデシュ人と日本人の友情の証として、「Emdad-Honjo Ideal Girls School」と命名された。校舎のピンク色は、女子学校だからということで、エムダッドが選んだ。



Emdad-Honjo Ideal Girls School 所在地: Narail, Dacca, Bangladesh

「私は設立校長として学校全般を統括し、地域懇談会、教員研修、政府機関との連携などに携わっています。運営資金を提供してくださっている本庄氏には二か月ごとに状況を報告しています。氏は折に触れバングラデシュを訪れ、学校の今を確認されています。学校の計画案は二人で作成しています。」

Emdad-Honjo Ideal Girls School は、設立後5年で地域の教育発展にとって最高の教育機関の一つにまで成長した。エムダッドは学校の成功に満足してこう語っている。「国家試験を受ける生徒の95%から100%が合格するという好成績から、学校は地域でも評判になりました。この成績は町の他の学校よりもはるかに優れたものです。私学でもあり、キャンパスは清潔で建物は管理が行き届き、システムも整っています。また、教師陣は優秀で学校のために尽力しています。」



2013年バングラデシュのプライマリ・ヘルスを見学する日本人学生

この他にも、エムダッドは非政府研究機関“Bridge of Community Development Foundation” (BCDF; www.bcdf-bd.org)に携わり、バングラデシュの人々のための保健・環境研究開発を行うほか、地域社会の人々と保健研究のためのプライマリ・ヘルス・ケア・センターを設立している。

また、東京大学バングラデシュ同窓会の事務局を運営するほか、バングラデシュの「日本留学プロジェクト」にも参画している。

将来の夢はよりよい社会福祉の実現

エムダッドは様々な活動を通じて複数のSDGsを手掛けている。バングラデシュの人々のために働くことで、人々に恩恵がもたらされ、未来の世代への持続的な発展がもたらされるものと信じている。日本の研究者や社会とのコネクションも多い。こうした取り組みは世界の低資源国にとっての好事例となりそうである。

Emdadからのメッセージ：

「教育と知識でよりよい人間と持続可能な社会を」

(東京大学社会連携本部卒業生部門編集)